地域支援センター　「みみらんど・郡山」

平成２５年度　きこえとことばの学習会

第１１回「子どもがかかりやすい耳の病気」

１月２３日（木）、福島県総合療育センター耳鼻咽喉科　鈴木雪恵医師が「子どもがかかりやすい耳の病気」についてお話ししました。その概要をお知らせします。

【小児が罹患しやすい耳の病気】補聴器をしていると耳の中が蒸れやすくなり**外耳道炎**になりやすくなります。帰宅したら補聴器を外して少し換気すると予防になります。外耳道炎は耳介をひっぱると痛みがあります。早めに耳鼻科を受診するようにしてください。**急性中耳炎**は鼻炎や咽頭炎から耳管を通して炎症が波及してなります。ひどいと膿が溜ったり、鼓膜が破れて膿が出てきたりします。特に膿が溜まると高熱が出たり耳が塞がった感じになり聞こえにくくなったりします。子ども自身は痛みにも気付かないことが多いので、鼻水・発熱の症状があって機嫌が悪いときには受診してください。予防としては、鼻すすりをしない、鼻をよくかむ、手洗い・うがいをすることです。**滲出性中耳炎**は急性中耳炎の後遺症でなったりします。症状としては、難聴、耳閉感、自声強調がありますが、自分では気づけない子がほとんどです。鼻水が出ていて反応が悪いときは滲出性中耳炎を疑います。**癒着性中耳炎**は滲出性中耳炎がさらに悪化した状態で、鼓室の壁に癒着して伝音性難聴が残る場合が多いです。予防としては、滲出性中耳炎、耳管狭窄の治療をしっかり行うことです。小さいお子さんだと自分では気づけないので鼻水が出ていたら早めに耳鼻科を受診してください。**外傷性鼓膜穿孔**は、耳かきによる損傷が多いです。保護者が傷つけてしまう場合、子どもが大人の真似をして耳かきをしようとしてさしてしまう場合があります。子どもの目の前では耳かきをしないなどの配慮が必要です。

【小児が罹患しやすい鼻の病気】急性鼻炎は鼻の粘膜が腫れ、鼻閉、鼻汁といった症状があります。鼻をかむだけでも治りは早くなるので鼻をかむ練習をよくしてください。**副鼻腔炎**はいわゆる蓄膿症のことで鼻炎からの波及でなります。副鼻腔炎になる前に鼻をかんで予防することが大切です。**鼻アレルギー**はハウスダストや花粉が原因で症状が出ます。特に花粉症の予防としては、マスクや眼鏡を着用し、帰宅時に衣服をよくはたいて入室し、手洗い・うがいをすることです。**扁桃肥大**は副鼻腔炎や気管支炎などの合併症を予防するために、手洗い・うがい・鼻かみをしたり、就寝時に３０度ベッドアップ（布団を重ねて高くして上半身を少し上げた状態に）して気道を確保したりすることが大切です。

いずれの症状についても悪化させないためには早めに耳鼻科を受診することが大切です。風邪が疑われる場合も、明らかに鼻の症状のみというときは耳鼻科へ行くことをお勧めします。鼻の処置をして耳まで確認してもらえるので安心です。

講義の中では、難聴とその対応についてのお話もありました。特に療育に関しては、聴覚系の脳の発達を念頭におくことが重要です。まずは、お子さんの聞こえの状態を把握し、人工内耳や補聴器の管理をしっかり行い、お子さんの現在の状態に合わせて聞くし姿勢や話す姿勢を育てることが大切とのお話がありました。